

セルフモニタリング報告書（令和7年度分）

令和 8 年 4 月 30 日

施設名：福祉ふれあいセンター
指定管理者名：労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団
所管課名：健康福祉部 障がい福祉課

モニタリング項目	指定管理者コメント	自己評価				
1 事業計画の達成度						
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理運営が行われたか。	ほぼ適切に行った。	A	B	C	D	E
施設利用者数の増加、利用率の上昇、利用者利便性の向上などの目標は達成されたか。	利用者数、利用回数共に前年を上回り、利用者数は 2万人を突破し、利用回数も前年比+10%を達成した。	A	B	C	D	E
施設の設置目的にあった成果は上がっているか（目標値を設定していないその他の施設）。		－	－	－	－	－
自主事業は計画どおり行われたか。	前年度の実績である16回実施には及ばなかったものの内容的には参加人数の多寡にかかわらず、効果的な実施が多かった。	A	B	C	D	E
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか。	センターまつり等の開催により多方面の組織、利用団体や地域住民、ボランティアの方々との交流の場を提供したが、継続性に欠けていた感は否めない。	A	B	C	D	E
2. 利用者の満足度						
利用者の満足が得られているか。	アンケート結果では職員の対応において満足・やや満足で88%を超えたものの他の項目においても前年度の評価を下回る結果となった。	A	B	C	D	E

利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	意見箱の設置やアンケート調査を実施し、窓口業務においても生の声を最大限活用した。	A	B	C	D	E
利用者の意見・要望・苦情への対応は十分行われたか。	迅速に対応し、改善を行ってはいるが、職員の認識不足で至らぬ点も散見された。	A	B	C	D	E
3 管理運営の効率性						
経費の低減が図られているか。またその取組は十分か。	光熱水費の削減を念頭に適度な使用を周知徹底して、こまめな監視体制を実践し、電気・ガス・水道全てにおいて前年度を下回る使用量、金額を実現した。	A	B	C	D	E
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また、経費が最小となるような取組はされているか。	複数の事業者から見積りを徴収した上で適切に判断し、節減意識を職員間で共有した。	A	B	C	D	E
収入増加のための取組はされているか。	生活介護においては見学等の受け入れを積極的に行った。	A	B	C	D	E
4 適正な管理運営						
職員の能力向上に向けた取組は行われたか（研修等）。	業者に依頼し、定期的に社内研修を実施する等職員の知識習得や士気高揚を図り、町内会主催の講習会にも積極的に参加した。	A	B	C	D	E
安全対策（事故防止等）は十分だったか。	避難訓練を年 2 回実施し、非常時での備えを万全にし、講師による不審者対応や救命救急講習を行い、安全に対する意識の高揚を図った。	A	B	C	D	E
人員配置及び職員の管理体制は適正か。	適正な人員配置を行った。	適			不適	

施設の平等な利用等について、適切に処理されているか（使用料の減免、還付含む。）。	定める基準に従い、適切に処理した。	適		不適		
利用者の個人情報等について適正に管理が行われていたか。	適正に管理した。	適		不適		
収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。	複数体制で適正に行った。	適		不適		
施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。	適正に実施した。	適		不適		
書類・備品等の管理は適正に行われているか。	適正に管理した。	適		不適		
法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。	適正に管理した。	適		不適		
5 地域貢献						
雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	地元企業と取引している。	A	B	C	D	E

- A：目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。
- B：目標、事業計画どおり又はそれ以上の取組がされており、管理運営状況は良好である。
- C：概ね目標、事業計画どおり行われており、管理運営も適正で、特段問題は見られない。
- D：目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適正な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。
- E：目標、事業計画の内容を大幅に下回っており、かなりの部分において改善が必要である。

総合評価



【★の数が5～0の6段階評価で評価しています。】

〈 4 適正な管理運営において不適がある場合、その理由と今後の対応について 〉

指定管理者の自己評価（全体を通して）

貸館利用者は20,228人（前年比+5.3%）、利用回数は2,834回（前年比+10.0%）で共に前年度を上回る実績となり、特に体育館の利用増は前年同様に顕著で、利用者は9,770人（前年比+11.0%）、利用回数は786回（前年比+11.6%）と堅調な実績となりました。しかしながら、会議室・研修室においては利用回数がそれぞれ3.6%、1.3%と前年を上回ったものの利用者数においては2.0%、6.9%と下回る結果となり、カテゴリー別の格差が見られ、必ずしも順調な利用実績とは言い難い結果となりました。新規登録団体が年間5件あり、利用実績を押し上げた感はあるものの懸念材料もあり、思うような数字の積み上げが出来ずに終わったことは悔やまれます。特定の定期利用サークルの利用回数の減少や利用回数は前年と変わらないものの利用者数が減少するといった、各サークル・団体の登録者数の減少傾向が散見されたことへの対策を見出せぬまま指定管理期間を終了することとなりました。

また、アンケート結果では「職員の対応に満足している」の項目で満足とやや満足が88.1%（前年90.4%）になる等その他の項目においても軒並み前年の評価を下回る結果となってしまいました。

改めて職員の危機感の欠如と受け止めています。

自主事業においては年間12回の実施で、「冬休み自習室」は参加者0という不名誉な結果となりましたが、恒例の大イベントである「ふれあいセンターまつり」は悪天候の中、450名に及ぶ参加者を集めて盛大に開催され、その他の事業でも毎回20～30名程度の参加者をお呼びして、タイムリーな内容で積極的なコミュニケーションの機会を提供しました。参加者の笑顔が絶えないシーンも数多くあり、参加人数の多寡にかかわらず、実りの多い事業が実施出来たと自負しています。

主たる経費である、光熱水費においては電気使用量141,515kwh（前年比-3.2%）、金額4,629,924円（前年比-4.4%）、ガス使用量56,425m³（前年比-6.7%）、金額9,193,220円（前年比-8.6%）、水道使用量926m³（前年比-9.2%）、金額600,638円（前年比-1.7%）となり、全ての項目で前年を下回る数字を実現しました。適度な使用を念頭に貸館状況を踏まえ、時間帯によるこまめな監視体制を実践し、無駄のない使用を心がけた成果と認識しています。

最後にこれまでお世話になりました。障がい福祉課様、発達支援課様、あさひ様、呼吸器内科クリニック様に改めて感謝を申し上げます。長きにわたりご支援、ご協力賜り誠にありがとうございました。